

■研究報告

沼田町化石館年報 15: p 21-22. (2016).

北海道沼田町の雨竜川, 上部幌加尾白利加層(下部鮮新統)から産出した鯨類尾椎について

田中嘉寛

A short note of a new whale caudal vertebra from the lower Pliocene, upper Horokaoshirarika Formation, Uryu River in Numata, Hokkaido, Japan.  
Yoshihiro TANAKA

Abstract

A new whale caudal vertebra is reported from the early Pliocene, upper Horokaoshirarika Formation, Uryu River (43°48'26.36"N, 141°57'42.78"E) in Hokkaido, Japan. The caudal vertebra was found by Mr. Katsumi Kobayashi and Mr. Tenga Kobayashi in 4<sup>th</sup> Augst 2015, and registrated as NFL 2620 (Numata Fossil Museum). The isolated epiphysis of the vertebra indicates that is from a juvenile. This area has produced many cetacean materials, which will contribute for better understanding about paleoenvironment at the area.

はじめに

北海道雨竜郡を流れる雨竜川からは、これまで多くの鯨類化石が発見されており(古沢, 1993; 篠原・田中, 2007), もっとも初期の発見は 1977 年ごろ故・山下茂氏による鯨類肋骨の発見で(木村私信), その後, 1978 および 1980 年に鯨類化石が発見され, 報告された(フカガワクジラ発掘調査団, 1982; 木村ほか, 1987). 雨竜川は鯨化石の有力な産地である.

標本について

2015年8月4日, 雨竜川で小林克己氏・小林天臥氏が地層に半分埋まっている化石を発見・採集し(図1), 沼田町化石館に持ち込んだ. 筆者は形態に基づき, 鯨類の背骨と同定し, 化石産地に向かった. 小林氏らと探索の結果, 脊体円板を追加収集した. 他の部位が産出する可能性があったので, 半径80センチほどを掘り返して探索したが, 新たな化石発見はなかった. 「学術的に活用して欲しい」と, 発見者から寄贈を受け, 本標本は NFL 2620 として登録された.



図1. NFL 2620 の発見状況(小林氏提供)  
Finding of NFL 2620. (Photed by Mr. K. Kobayashi)

標本の記載

クジラ類 Cetacea Brisson, 1762  
ヒゲクジラ類 Mysticeti Gray, 1864  
科不明 Family indet.

標本: NFL 2620(図1, 3), 尾椎  
産地: 北海道, 沼田町, 雨竜川で穂栄橋から下流に300メートルほどの地点(図2). 43°48'26.36"N 141°57'42.78"E.  
産出層準: 上部幌加尾白利加層. 化石産地のの上流には Ops と呼ばれる凝灰岩層が知られている(古沢ほか, 1993). その凝灰岩層は幌加尾白利加層内にあり, 上部と下部とに分けることが知られている(渡辺・吉田, 1995).  
時代: 前期鮮新世(およそ550から350万年前)(中島・間嶋, 2000).

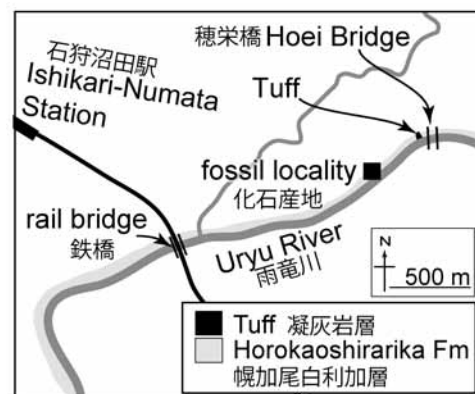


図2. NFL 2620 の産地. NFL 2620 locality.

記載: NFL 2620 は直径 52.5 mm の円柱状の椎体が保存されており, 前方の椎体円板が外れた状態で発見された(椎体のみ前後長 51.0 mm, 椎体円板のみ前後長 8.5 mm). 椎体と椎体円板は粗面を呈し, その

■研究報告

沼田町化石館年報 15: p 21-22. (2016).

パターンは完全に一致しているため、同一骨から分かれたものと理解できる。後方の椎体円板は失われている。背側の棘突起と左右に張り出す横突起は破損しており、その基部のみが保存されている。棘突起基部には vertebrarterial foramen (直径 5.5 mm)が右背側のみ開放している。

考察

NFL 2620 は椎体円板が外れていることから若い個体であると推定できる。また、比較的大きく、同層から産出しているヌマタネズミルカの尾椎よりも大きいことからヒゲクジ

ラ類の尾椎であると推定できる。雨竜川で見つかったクジラ化石のうち、NFL 14 は小型のヒゲクジラ *Herpetocetinae* の下顎と考えられている (Tanaka et al, submitted)。NFL 2620 も *Herpetocetus* のような小型ヒゲクジラである可能性がある。

謝辞

本標本を発見した小林克己氏・小林天臥氏には、快く寄贈して下さった。木村方一名 菅館長には初期の雨竜川での発見について教えて頂いた。心よりお礼申し上げます。

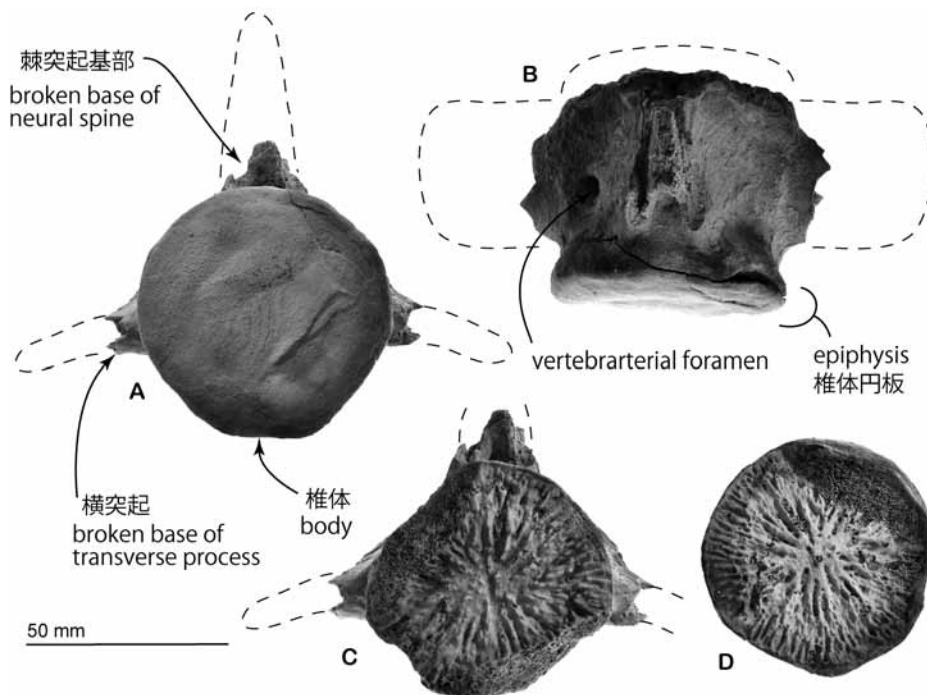


図3. NFL 2620. A, 前方より. B, 背方より. C, 椎体円板を外した状態の椎体, 前方より. D, 外した椎体円板, 後方より.

引用文献

フカガワクジラ発掘調査団 1982. 深川産クジラ化石発掘調査報告書. 133 pp. 深川市教育委員会発行, 札幌.  
古沢仁, 前田寿嗣, 山下茂, 嵯峨山積, 五十嵐八枝子, 木村方一. 1993. 北海道沼田町産海生哺乳類化石群の年代と古環境. 地球科学 47 (2): 133-145.  
篠原暁, 田中三郎. 2007. 北海道沼田町の下部鮮新統より新たに見つかった鯨類耳骨化石. 沼田町化石館年報 7: 16-22.  
Tanaka Y, Furusawa H, Barnes LG submitted. The fossil baleen whales, *Herpetocetus* sp. (Cetacea, Mysticeti, Cetotheriidae) mandibles from the lower Pliocene,

upper Horokaoshirarika Formation at Numata, Hokkaido, northern Japan and review of cetotheriid records from Hokkaido.

中島礼, 間嶋隆一. 2000. 内側陸棚相の貝化石層の解析: 北海道沼田町に分布する上部中新統~下部鮮新統幌加尾白利加層の例. 地質学雑誌 106 (2): 136-150.  
渡辺真人, 吉田史郎 1995. 恵比島地域の地質. 62 pp. 地質調査所, つくば市.  
木村方一, 山下茂, 上田重吉, 雁沢好博, 高久宏一. 1987. 北海道雨竜郡沼田町の下部鮮新統産クジラ化石. 松井愈教授記念論文集: 27-57.